

Okayama EU Letter

岡山EU協会会報

2016. 9

Vol. 8



★ 2016年度総会で事業計画など決定 ★

岡山EU協会（萩原邦章会長）の2016年度理事会・総会が6月9日（木）、岡山市北区のANAクラウンプラザホテル岡山で開かれ、2015年度事業報告・同収支計算書案、2016年度事業計画・同予算書案、役員選任の件など5議案を審議、いずれも原案通り承認されました。

総会には法人会員61・個人会員57人のうち31人が出席、欠席の78人から委任状あるいは代理出席がありました。総会后、駐日ハンガリー大使館のギョルギ・ユハース参事官（臨時代理大使）が「ハンガリーー新しい関係の可能性」と題して記念講演を行い、その後、懇親会を開き、和気あいあいとした楽しいひと時を過ごしました。

〔第1号議案〕

2015年度 事業報告

1、欧州の経済・文化事情についての勉強会「EU講座」を充実する

岡山EU協会が発足した翌年の2010年4月にもっと欧州の経済・文化事情を知ろうと身近な講師を招いてEU講座をスタートさせました。平成27年度は2回開催しました。具体的には9月、武蔵野美術大学を卒業後、スペインに渡りマドリッドを拠点に芸術活動を展開している瀬戸内市出身の造形作家・山口敏郎さんを招き第15回講座「私と自然 日本とスペインの往還」を開きました。また、平成28年3月には、5月に倉敷市で開かれる教育サミットの準備のため来岡した欧州連合代表部のセラ・ウテン広報部長の第16回講演「私が観たEU」を聴きました。

2、「EU Letter」の継続発行

年1回発行しており、本年度も6月理事会・総会での決定事項、総会の記念講演の要旨、ホームページで掲載したイベントレポートなどを取りまとめ第7号として発行しました。

3、岡山EU協会のホームページの充実

2010年5月にホームページを立ち上げました。会長あいさつ、

会則などを常時掲載しているほか、理事会・総会、EU講座の開催日をイベントカレンダーとして、また、その結果をイベントレポートとして報告しています。スマートフォンにも対応、また「写真で見るEU」では会員からの写真を公開できるようにしています。他の協会ともリンクを張りそれぞれの活動状況が分かるようにしています。

4、会員増強と会員への情報提供の効率化を図る

平成27年4月は法人61、個人52でスタートし途中、複数の入・退会があり28年3月末は法人60、個人55となりました。会員の増強はその会の元気を測るバロメーターといえ今後も会員拡張に励むつもりです。情報提供はFAXを中心に取り組んできました。

5、EUとの友好促進事業の実施・共催

本年度のEU協会全国総会が12月、東京都港区の駐日欧州連合代表部で開かれ、各地の協会から活動状況の報告、意見交換が行われ、岡山からは金森満廣事務局長が出席しました。

〔第2号議案〕

2015年度 決算報告

(2015. 4. 1 ~ 2016. 3. 31)

収支決算

収入総額	¥2,621,991
支出総額	¥1,523,194
差引残高	¥1,098,797 (2016年度に繰り越し)

収入の部

科 目	予算額	決算額	差引額	摘 要
年会費収入	¥1,590,000	¥1,490,000	¥ - 100,000	法人会費 @20,000×62、個人会費 @5,000×50
参加会費	¥875,000	¥581,000	¥ - 294,000	総会 @7,000×36 = 252,000円 第15回EU講座 @7,000×22 = 154,000円 第16回EU講座 @7,000×25 = 175,000円
事業収入	¥0	¥0	¥0	
その他雑収入	¥200	¥156	¥ - 94	普通預金利息収入
前年度繰越金	¥550,835	¥550,835	¥0	
合 計	¥3,016,085	¥2,621,991	¥ - 394,094	

支出の部

科 目	予算額	決算額	差引額	摘 要
総 会 費	¥750,000	¥728,273	¥ - 21,727	・ 6/5総会会場・懇親会 490,145円 ・ BGM演奏料 43,524円 ・ 講師費用 194,604円
事業費	¥1,000,000	¥558,802	¥ - 441,198	・ 第15回EU講座費用 9/8 283,198円 ・ 第16回EU講座 3/28 275,604円
広報費	¥150,000	¥149,280	¥ - 720	・ ホームページ維持費用 5,884円 ・ 会報 (EU letter) 7号発行 143,396円
事務諸費	¥100,000	¥86,839	¥ - 13,161	・ 通信費 36,005円 ・ 出張旅費 40,190円 ・ 消耗品費 9,828円 ・ その他雑費 816円
特別費	¥10,000	¥0	¥ - 10,000	
合 計	¥2,010,000	¥1,523,194	¥ - 486,806	

会計監査報告

2015年度の会計について監査を執行し、収入・支出ともに正確に記帳整理されており、帳簿・証拠書類の保管は完全であることを認める。

2016年6月3日

監事

監事

吉澤 威人
岡崎 研

〔第3号議案〕 2016年度 事業計画

- 1、欧州の経済・文化事情についての勉強会「EU講座」を充実する
- 2、「EU Letter」の継続発行
- 3、岡山EU協会のホームページの充実
- 4、会員の増強を図る
- 5、EUとの友好促進事業の実施

〔第4号議案〕 2016年度 収支予算書

(2016年4月1日～2017年3月31日)

収入の部

科 目	2015実績	2016予算	差引額	摘 要
年 会 費 収 入	¥1,490,000	¥1,560,000	¥70,000	@20,000×63(2法人増強) @5,000×60(4人増強)
参 加 会 費	¥581,000	¥595,000	¥14,000	総会参加会費@7,000×25 EU講座参加会費(3回開催予定)
事 業 収 入	¥0	¥0	¥0	EUフィルムデーズ開催なし
そ の 他 雑 収 入	¥156	¥200	¥44	預金利息
前 年 度 繰 越 金	¥550,835	¥1,098,797	¥547,962	
合 計	¥2,621,991	¥3,253,997	¥632,006	

支出の部

科 目	2015実績	2016予算	差引額	摘 要
総 会 費	¥728,273	¥1,000,000	¥271,727	総会費用(会場、懇親会、講師謝礼等)
事 業 費	¥558,802	¥750,000	¥191,198	EU講座費用 約250,000円×3回
広 報 費	¥149,280	¥150,000	¥720	会報発行、HP維持更新費用
事 務 諸 費	¥86,839	¥100,000	¥13,161	通信費、出張旅費、消耗品費
特 別 費	¥0	¥10,000	¥10,000	予備費
次 年 度 繰 越	¥1,098,797	¥1,243,997	¥145,200	
合 計	¥2,621,991	¥3,253,997	¥632,006	

〔第5号議案〕 役員の選任について

交代 理 事	大学コンソーシアム岡山会長	片岡 洋行
理 事	福武教育文化振興財団代表理事・理事長	福武 純子
理 事	山陽新聞社社長	松田 正己
理 事	岡山放送社長	中静 敬一郎

〈参考〉

岡山 EU 協会役員 (2016.9月現在)

名誉会長	岡山経済同友会顧問	越宗 孝昌	理 事	岡山経済同友会常任幹事	古市 大藏
会 長	岡山経済同友会顧問	萩原 邦章	理 事	岡山県中小企業団体中央会会長	晝田 眞三
副 会 長	駐日欧州連合代表部広報部長	フリオ・アリアス	理 事	大学コンソーシアム岡山会長	片岡 洋行
副 会 長	岡山大学学長	森田 潔	理 事	岡山県文化連盟会長	若林 昭吾
副 会 長	岡山県国際経済交流協会会長	宮長 雅人	理 事	福武教育文化振興財団代表理事・理事長	福武 純子
副 会 長	岡山県経営者協会会長・岡山県国際交流協会会長	末長 範彦	理 事	岡山市長	大森 雅夫
顧 問	岡山県知事	伊原本隆太	理 事	倉敷市長	伊東 香織
顧 問	駐日欧州連合代表部大使		理 事	山陽新聞社社長	松田 正己
	ヴィオレル・イステイチョアイア・ブドウラ		理 事	山陽放送社長	原 憲一
理 事	岡山経済同友会顧問	泉 史博	理 事	岡山放送社長	中静敬一郎
理 事	岡山経済同友会顧問	中島 基善	理 事	テレビせとうち社長	川端 英男
理 事	岡山県経済団体連絡協議会座長	中島 博	監 事	岡山県商工会議所連合会会長	岡崎 彬
理 事	岡山経済同友会代表幹事	松田 久	監 事	岡山県商工会連合会会長	吉澤 威人

講演要約（6月9日 2016年度 岡山 EU 協会総会）



「ハンガリー・新しい関係の可能性」

駐日ハンガリー大使館の参事官（臨時代理大使）であるユハース・ギョルギ氏（ハンガリーの名前表記は姓名の順である）の講演が6月9日に ANA クラウンプラザホテルで行われ、ハンガリー、欧州連合（EU）、ハンガリーと EU、ハンガリーと日本の関係について小笠原ヒロ子氏の逐次通訳で伝えられた。

講演者・ユハース・ギョルギ氏について

ブダペスト工科大学において生化学の分野で博士号を取得後、ハンガリー政府イノベーション局の国際課長補佐などを歴任し、研究開発イノベーションの発展において EU と関わり、研究開発イノベーション助成事業のシステム形成などに尽力する。2013年より駐日ハンガリー大使館の科学技術担当参事官。趣味は、音楽鑑賞、コーラス、詩の制作、テニスなど。



ハンガリーについて

人口約1000万人、国土が日本の4分の1である中欧ハンガリーは周りをオーストリア、スロヴァキア、ウクライナ、ルーマニア、セルビア、クロアチア、スロヴェニアに囲まれている。ドナウ河岸、ブダ城地区及びアンドラーシ通りを含むブダペスト、トカイのワイン産地の歴史的・文化的景観、アッグテレク・カルストとスロバキア・カルストの洞窟群、ホッローケーの古村落とその周辺地区、パンノンハルマのベネディクト



会修道院とその自然環境、ホルトバージ国立公園、ペーチ（ソピアネ）にある、初期キリスト教墓地遺跡、フェルトゥー湖／ノイジトラ湖の文化的景観という8か所の世界遺産に恵まれ、3つの無形文化財に加え温泉文化を持ち、ブダペストのセーチェニ温泉、ヘーヴィーズの温泉湖、ミシュコルツの洞窟温泉はその一例である。

ハンガリーは日本企業に駐在員として滞在されるご家族の住環境も良く、数々の日本食レストランがあり、ゴルフも楽しめ、日本人学校もある。

講演ではハンガリー料理も紹介され、フォアグラ、パプリカーシュチルケ（鶏肉をパプリカで調理したチキンパプリカ）、コルバース（ハンガリーのチョリソ・ソーセージ）が入ったラコットクルンプリ（ポテトグラタン）、ドボシュケーキ、クリスマスやイースターに食べるペイグリ（ロールケーキ）、ゲステニェプレー（モンブランに似た栗のホイップクリームデザート）など写真を見ながら説明が行われた。



ハンガリーは、様々な分野で沢山の著名人を輩出しており、スポーツ分野では、2012年のロンドンオリンピックでの金メダル数（8個）で世界9位につけ、開発・発明の分野でも、ビタミンC、ボールペン、ノイマン型コンピューター、ワード・エクセル、ルービック・キューブなど私たちが日常的に使用している物が実はハンガリー人によって開発・発明されたということが伝えられた。

その為、伝統あるハンガリーの高等教育には定評があり、その教育は現在奨学金という形で日本人にも広く門戸が開かれており、2013年に日本とハンガリー政府の間で結ばれた協定により開始したハンガリー政府Stipendium Hungaricum奨学金においては、毎年100名の日本人奨学生の募集が行われる。対象となる分野は保健科学、芸術、商・経営学、欧州・国際関係、自然科学・数学、情報・機械工学となっており、博士課程については分野不問であり、取得できる学位は学士、修士、博士号である。他に夏期コースへの奨学金の募集も行われている。



更に講演では、ハンガリーの長い歴史についても述べられた。ハンガリー人の祖先は896年にアジアからこの地に移住した。西暦1000年に国王聖イシュトヴァーンは国教をキリスト教とし、ローマ教皇から戴冠式を受け、ハンガリー王国となった。その後、13世紀にモンゴルが侵攻し、16世紀からは約150年間オスマン帝国やハプスブルグ家に支配されるが、1848年にはハンガリー革命が起こり1867年にオーストリア＝ハンガリー二重帝国が成立する。第二次世界大戦後にはソビエト連邦の影響下にあったが、1989年の「汎ヨーロッパピクニック事件」を機に風穴を開け、体制転換した。1999年には北大西洋条約機構（NATO）に加盟し、2004年には欧州連合（EU）に加盟する。

欧州連合（EU）、ハンガリーと EU

ハンガリーが EU に加盟したのは2004年であるが、2007年にはシェンゲン協定にも加盟している。ハンガリーの2015年の GDP の成長率は2.9%で、2016年から2020年までは平均で2.5%と予想されている。経済が成長を続けることには、EU からの資金供給があることも事実であり、また多くの外国企業がハンガリーへ投資をしていることもあって失業率は年々減少傾向にあり、現在6.8%である。これは EU の中で低い水準である。



EU では明確化した政治・経済協力を行っているが、このような協力メリットの影で試練もあり、講演では難民危機にも触れられた。難民の数は2015年には前年の10倍近くまで膨れ上がり、ハンガリーは法の秩序に従いシェンゲン協定の枠組みの中 EU の外部境界を守っていく立場であることが述べられた他、難民になる理由、移動経路等も伝えられた。

地域的サブグループであるヴィシェグラード4か国（ハンガリー、ポーランド、チェコ、スロヴァキア、以下V4）についても紹介があり、その結びつきは中世に遡るが、サブグループとしては1991年に設立された。サブグループの中で日本との関係強化を図っており、2014年には「V4+日本」交流年として政治、文化、教育、科学的な活動を行った。2016年6月には科学分野のセミナーが東京で開催され、専門家の意見交換や、相互協力について話し合いが行われた。4か国が共同出資で行う科学技術プロジェクトは既に始まっており、今後も計画されている。

ハンガリーと日本

他の外国企業同様、日本企業もハンガリーに進出しており、日本はハンガリーにとってアジアの中でハンガリーに大きな投資を行っている国であり、重要な貿易パートナーである。ハンガリー政府の戦略パートナーとしては、スズキ株式会社、株式会社デンソー、株式会社プリヂストン、タカタ株式会社、イビデン株式会社、ゾルテック社（東レ株式会社）などがハンガリーで操業しており、他に旭硝子株式会社、日清食品株式会社、H O Y A株式会社、T D K株式会社、J S R株式会社、古河電気工業株式会社など、その数は約140社以上にも上る。約2万5千人もの人が日系企業で働き、中には古河電気工業株式会社のように製造のみならず、研究施設も設け、40人の科学者の雇用を行っていただいている企業もある。

日本に進出しているハンガリーの企業は、サラミのピック社、食器のヘレンド社、建築ソフトのグラフィソフト社などが挙げられる他、ハチミツや貴腐ワインなどのハンガリー商品は日本の店頭で容易に見つけることができる。

大臣レベルの両国訪問も行われており、2013年8月には岸田外務大臣のハンガリー訪問、同11月のオルバーン・ヴィクトル首相の来日、一番最近では2016年5月のクヴェール・ラースロー国会議長の日本訪問なども伝えられた。

1000年以上の歴史を持つハンガリーであるが、アジアに起源を持ち、日本人との民族的な繋がりを研究する専門家もいる。その歴史の中で築き上げた文化を背景にEUの加盟国として、同様に長い歴史を持つ日本との関係が今後益々深まり、経済・貿易・科学・文化・教育など様々な分野での両国の更なる発展を願う。





2015年全国EU協会総会 ～各協会が1年間の活動報告

E U協会の2015年全国総会が12月10日（木）、東京都港区南麻布のヨーロッパハウス（駐日欧州連合代表部）で開かれ、各地E U協会から本年度の活動状況の報告の後、意見交換が行われた。

全国14のE U協会のうち12の会長や事務局長、また、駐日E U代表部からはセーラ・ウテン広報部長、末常美和子同部員ら計約20人が参加。岡山からは金森満廣事務局長が出席した。

ウテン広報部長が「日欧は戦略的パートナーシップ協定（SPA）と自由貿易協定（FTA）の並行交渉が進行中であり、世界から注目が集まっている」などと開会あいさつした後、出席したE U協会の会長、事務局長らが本年度の活動実績、今後の予定などを報告し合った。金森事務局長は岡山の会員に対し年1回の割合で配布している「Okayama EU Letter 7」をもとに説明。2009年12月に全国13番目の協会として設立、5年が経過し記念講演を開催したが講師に作家でシャネル日本法人社長のリシャール・コラス氏を迎えた講演「フランス人から見た日本文化のあれこれ」が非常に好評だったこと、また、E Uのことをもっと知ろうと開いている「E U講座」では、県立美術館の石原亜弓非常勤学芸員からフィンランド童話「ムーミン」の魅力について、造形作家山口敏郎氏から「私と自然 日本とスペインの往還」の講演を聴いたことなどを説明した。6月総会で会長が萩原邦章岡山経済同友会代表幹事に交代したことなども報告した。



第16回EU講座 ～EU代表部セーラ・ウテン広報部長

第16回E U講座が2016年3月28日（月）、岡山市内のホテルで開かれ、5月に倉敷市で開かれる教育サミットの準備のため来岡した欧州連合（E U）代表部のセーラ・ウテン広報部長が「私が観たE U」と題して講演、会員ら40人が熱心に聞いた。

まず、萩原会長が冒頭あいさつで「押し寄せる移民問題、6月には英国がE Uに残るかどうかの国民投票が行われるなどE Uは今多くの問題を抱えており、私たちも強い関心を持っている。今後、勉強し経済的にも政治的に良い関係をつくっていききたい」と述べた。

講演でウテン部長は「皆さんの関心はテロ、移民、E U離脱を問う英国の国民党投票などにあるのかもしれないが、E Uが注目されるべき点はもっと別のところにある」と前置きし、真っ先に挙げたのがE Uのパートナーシップの良さだった。2004年12月、インドネシアのアチェで津波が発生し大被害が出たのを機に、E U加盟国が人材派遣など行い政府軍と反政府軍との和平交渉をリードし紛争を解決した経緯を紹介「一つの国ではできないことをE U加盟国が一緒になって取り組み、紛争を解決したことは高く評価され、報道で取り上げられるべきだった」と語った。

また、1952年に過去の戦争の引き金になった石炭と鉄鋼を共同管理する欧州石炭鉄鋼共同体（ECSC）が始動、E Uのひな型になった歴史を語りながら「E Uのもともとの狙いは平和にある。最初は6カ国だったが今は28カ国に拡大、平和は今も価値観の中心になっており2010年にはノーベル平和賞を受賞した」と話した。さらにE Uは世界最大の開発援助提供者であり「軍事力をメインにしていない点は日本も同じであり、災害復興や開



発支援などこれから日本と協力できる面は多い」と述べた。一方、日本とEUは自由貿易協定の交渉中であり「これがまとまれば双方の輸出入が一段と拡大する」と期待を込めた。

最近の難民・移民問題について、日本も対日外国人の増加などで対応が求められていることから「他国の人と同じように話せる人権感覚が必要で、子どものころからこうした感覚を養う教育が大切だ」などと述べた。

第17回EU講座 ～「(選挙権の引き下げ等を含む) 欧州の若者の政治参画」

第17回EU講座が5月20日(金)、岡山市のホテルで小串聡彦慶應義塾大学EUSI研究員(外務省国際経済課EPA専門員)を招いて開催された。日本では7月の参院選挙で選挙権年齢が20歳から18歳に引き下げられたが、その数歩先を行く欧州諸国ではどのような議論がなされているのか、「(選挙権の引き下げ等を含む)欧州の若者の政治参画」と題して講演。会員ら約30人が熱心に聞いた。欧州では、高齢化社会の進展や若者の政治への関心の低下が進む中、若者の政治参加を促す手段として選挙権年齢の引き下げがずっと検討されてきた。若者は未来の社会の担い手である。社会の一員として政治決定に参加すべきだし、政治に新しい価値観を反映させるためにも若者参画が必要といえる。欧州で積極的に引き下げを主導しているのは各国の若者団体やその連合組織である若者協議会、EUレベルの欧州若者フォーラムだ。18歳にとどまらず、16歳選挙権の導入も進んでおり、オーストリアは国政および地方選挙で実施している。ドイツ、スイス、英国、ノルウェー、エストニアは特定の州および市町村選挙で実施、さらにスウェーデン、デンマーク、アイルランドでも選挙権16歳への引き下げの動きが進行している。「従来は欧州でも投票年齢の引き下げは否定的な見方が多数だったが、10代の投票率が相対的に高く、特に親が投票に行くと子どもも行くというように親との同居率の高さが投票率の高さに反映。また、ニュースを見る頻度もアップするなど政治的成熟度も上昇するという傾向も明らかになっている。こうしたことから選挙権16歳への引き下げに好意的な見方が出てきているのだ」と述べた。



2016年度理事会・総会 ～駐日ハンガリー大使館参事官による 記念講演

岡山EU協会(会長・萩原邦章岡山経済同友会顧問)は2016年度理事会・総会を6月9日(木)、岡山市内のホテルで開催した。

理事会に続いて開かれた総会では、萩原会長が冒頭で「混迷が続く中東情勢、ギリシャの経済危機など世界では様々な変化

が起きている。グローバル化が加速する中、この協会の活動を通じて国際情勢を学んでいきたい」とあいさつした。

議事に入り15年度事業報告・同決算書を審議、承認し、16年度事業計画として欧州経済・文化事情をよく知るため「岡山EU講座」を充実させる、会報「EU Letter」を継続発行するほか、ホームページの充実、会員の増強などに取り組むこと、これら事業を実施するため総額325万円余の収支予算を原案通り決めた。総会後の記念講演では、ギョルギ・ユハース駐日ハンガリー大使館参事官(臨時代理



大使)が「ハンガリー—新しい関係の可能性」と題して講演した。この後、懇親会を開き、和気あいあいと楽しいひと時を過ごした。(講演要約はP. 4)

ブドゥラ駐日欧州連合大使が来岡

来岡中のヴィオレル・イステイチョアイア・ブドゥラ駐日欧州連合大使が6月30日、岡山市北区の両備ホールディングス本社に萩原邦章岡山EU協会会長、松田久同理事を訪ね、6月23日に行われた英国の国民投票でEUからの離脱が決まったことで世界経済は大きな危機に直面している状況などについて意見交換した。

同大使は29日、岡山大学の招きで来岡、学生ら230人を前に「世界における欧州の高等教育」と題して教育や英国のEU離脱問題について講演した。

この日の講演では、なぜ英国はEUからの離脱を決めたかについて「EUの中の問題は日々の生活レベルで解決しないこともあり、それに不満を持っている人たちがいるのは確かだ。ただ、英国が民主主義のプロセスに基づいて離脱を決めたがその決定は尊重する」とし、その上で「これからを予測するのは困難だが、まず英国から正式に離脱の意思を通達する必要がある。この後、欧州条約50条に基づいて交渉することになる。物価は乱高下するだろう。流動性についても懸念している。貿易、経済協力、財政的連携で英国と協力し成果を上げてきただ

けに今後、両者のダメージを最小化し、双方にとって良い形のものにしたい」と述べた。また、EUについては「27カ国、4億人、単一市場のEUは今まで通り経済プロジェクトを継続していく」と語った。

日本とEUの関係については「広範で多様な分野で協力関係を築き上げてきている。パートナーシップを強化していく新しい意義がある。米国は日本とEUのFTA(自由貿易協定)を支持していて、反対していない。その価値が認識されているから7月に安倍首相がブリュッセルを訪問、9月には第17ラウンドが予定され、年末までにはEUと締結するだろう」と強調した。一方、AU(Asian Union)の可能性については「欧州では共通の政策の下、資源を共有して戦争を防いできた。ナショナリズムはあっても歴史的、政治的経緯により、国の枠を超えてEUに国の権限を委譲して連合を形成、グローバルな問題は連合が対応している。一方、アジアは資源(水、エネルギー、海洋資源)をめぐる競争しており緊張が増している。欧州に後れを取っている。資源の競争を防ぐためには連合を作ってみてはどうか」と述べた。

こうした講演内容を受けて30日、三者会談となったわけだが、とりあえずは英国の離脱の経過を注意深く見守っていくことにした。萩原会長は「英国の離脱の穴は日本がEUに加盟して埋める」と冗談を飛ばすと、ブドゥラ大使も「日本の加盟でEUはこれまで以上の人口、経済規模を持つことになる」と笑いながら応じ、また「岡山の緑の深さ、美しさが気に入った。欧州連合本部を岡山に移そうか」とまで言った。この後、もっと岡山のことを知ってもらおうと(公財)両備文化振興財団の「夢二郷土美術館」を案内、小嶋ひろみ館長代理の竹下夢二の絵画についての説明に「ビューティフル」を連発していた。





Think Globally, Act Locally
就実グローバル・フォーラム2016 vol.2
岡山EU協会特別講演会

英国のEU離脱と 世界経済のゆくえ

*How Brexit Will Affects
the Global Economy?*



第1部 基調講演 (15:00~16:00)

デイビッド・ウォレン卿 (前駐日英国大使)

「英国のEU離脱の背景と今後の展開」

“Why did Britain vote to leave the European Union and what happens now?” (逐次通訳: 小笠原ヒロ子)

第2部 鼎談 (16:00~16:50)

「EU経済の行方とグローバリゼーションの新局面」(仮題)

デイビッド・ウォレン卿

福地 慶太氏 (日本銀行岡山支店長)

杉山 慎策 (就実大学副学長兼経営学部学長)

■日時 2016年10月10日(祝) 15:00~17:00 【開場】14:30

■場所 就実大学110周年記念ホール (S102)
〒703-8516 岡山市中区西川原1丁目6-1

■参加無料

■参加申込/問合せ 就実大学経営学部・大崎 (☎086-271-8483)
岡山EU協会・大原 (☎086-222-0051)

■主催 就実大学・短期大学
岡山EU協会

10月10日(月・祝) 15:00~17:00、
就実大学と共催で、前駐日英国大使デイ
ビッド・ウォレン卿をお招きし、特別講演
会を開催します。

大変タイムリーなテーマですので、ぜひ
皆さまご参加ください。

岡山EU協会

〒700-0985 岡山市北区厚生町3-1-15
岡山商工会議所ビル5階
(一社)岡山経済同友会事務局内

TEL: 086-222-0051 FAX: 086-222-3920

Eメール: info@okayama-eu.jp

URL: http://okayama-eu.jp